

センター現代文

て分析力を

鍛える

■センター現代文で

分析力を鍛える

出口汪著

論理力を身につけるために

「社会人にとって、センター現代文は論理力を鍛えるための格好の教材」「小説問題こそ、現代に不可欠な客観的分析力を鍛えるのに最適」と著者は主張する。評者の大学受験は数十年も前

のことだが、当時も予備校では設問を短時間で処理するテクニックばかり重視されていた。今でもそうだろう。しかし、あらためて本書でセンター試験の出題文を読んでもみると、なかなか

味わい深いものがある。

管理社会と子供の遊びを取り上げた評論文(栗原彬)の解説の中で著者が指摘しているように、センター試験は若者を管理社会に適応させるためのゲームと見なすこともできる。しかし、それとは別に、問題文作成委員会は「この機会に文学の面白さに触れてほしい」と願っていると著者は推測している。試験問題としては異色の現代文学(僕はかぐや姫)松村栄子)を出題するなど、センター試験は

意外にも冒険好きなのである」。

小説問題であっても、論理的に考えながら読めば答えは見つかる。間違うと「文学的センス」のせいにはがちだが、正答につながる客観的な根拠が文中に必ずある。文学に苦手意識を抱きがちな理系の人や、ツイッターやライン等の短い文章の読み書きに最近偏ってるなあと感じる人に本書は特にお薦めである。(大和書房・1188円)

加藤出

(エコノミスト)